

日本労働組合連合会... 労働組合の発展... 労働者の権利... 労働者の生活... 労働者の健康... 労働者の教育... 労働者の文化... 労働者の政治... 労働者の経済... 労働者の社会... 労働者の国際... 労働者の歴史... 労働者の未来... 労働者の希望... 労働者の理想... 労働者の使命... 労働者の責任... 労働者の義務... 労働者の権利... 労働者の自由... 労働者の平等... 労働者の正義... 労働者の人道... 労働者の博爱... 労働者の和平... 労働者の合作... 労働者の共進... 労働者の共栄... 労働者の共榮... 労働者の共進... 労働者の共栄... 労働者の共榮... 労働者の共進... 労働者の共栄... 労働者の共榮... 労働者の共進... 労働者の共栄... 労働者の共榮...

労働組合の発展

労働組合の発展

再度!! 紡織工諸君に檄す!!!

第一回の檄文に依りまして、附随工部三十八ヶ所、その内十名以上の加配申込の工場が十六ヶ所、一名以上九名までの申し込が十一ヶ所ありました。

現在に於ては組合員は僅少ですがこの組合員は労働運動の中心の人物であり、殊に、多数の労働者の意氣が皆自分の生活の安定を犠牲にしてまでも多数の兄弟姉妹の爲に力戦しようと言ふ人達ばかりです。言はば、一騎當千の者ばかりです。この強の者が骨子となつて大合同を計らうと言ふのですから近き将来に健全な一大労働組合が組織せられる事は疑ひありません。

私共紡織工は、資本家から半馬の如く取扱はれると同時に、同じ労働者である、織工や他の職工から馬鹿にされてゐます。それは賃銀が安いので、餘り資本家から壓迫されるので、遂に他の職工と對等の交際が出来なかつたからです。それから今度の紡織工組合を組織するに就て、他の労働組合幹部の有力者が、一つ盡力して呉れないかと頼んで見たが、異口同音に、紡織工の組織は至難だと口々に誰れ一

東洋道の小山腹の富士瓦斯貯槽では、自然の地の理を利用して掘探する様な手段を取つてゐる。それは、世間を知らない用舎の少年が、工女募集の巧妙な手段に迷はされて来て見ると、朝の五時から晩の七時まで立ち通して働かされる、食物は至つて悪いから何を買つて食べようとしても、平常は一銭の金も預けて置かないからどうする事か出来ぬ、到底、勤め切れないから前頭へられ大金を奪ひ秘密に持つてゐて密かに体面を傷つけようとして、驛夫は切符を奪つて呉れない、それは又、金が無いので徒歩で逃げようとして所々に見張りが居るので逃げ事が出来ぬ、勿論手紙のような事が出来ぬものなら掛りの親方に、殺さる程、なぐられた結果髪を引きつて宿舎内の監視の火の標で掛けられる、夜中でも版の間にふとももければ、勿論火の氣もない、又、盛りでも飯桶を火入れないで一日も三日も食ひ物を與へないから、泣く泣く仕事に就くそれでも反抗心の強い姉妹は、一週も泣き通してゐる人も、又、この監獄の中、自由の無い。

難な爲めおさいを取落そうものなら再び支給しない又御飯でもそうである。然も食はせないで再び工部が無理に出して労働を強要する何と言ふ慘忍な事ぞう。工女も人の子です、若し、彼等の娘達がそんなひどい取扱ひをされたらどう感じます。冷血漢にも程がある。

五

全、六十萬の紡織工兄弟姉妹があの腐敗した空気の、十二三時間の労働に従事すると、食物の悪い爲め、完全な身體を遂に痛めてしまふ。その爲めに年々一萬五千の死亡者がある。農務省は發表した。まだ、若い身で愉快な生活を知らない、可憐な工女が工場設備の不健全な爲め、あたら一命を捨てなければならない。横暴なる資本家よそんならなして三割七割の利益配當がしたいのか、若し、この尊貴な犠牲者の手にひつて纏られたものが自分の着てゐる着物であるかと思ふと、熱い涙が止めどなく出る。そして着物に對する尊敬の念が禁じ得ない。

せし、六十萬の手に依つて日本の國富は如何に左右されるか論ずるに足る。微愛なる紡織工諸君、何れの方面から言つても、我々の生活に重大ではないか、その重大な任務を、誠誠に入れた、粗雑な物を與へたり、淫威と間違へたりする資本家に對し、相當の要求を提出し、人格を認め、且つ生活の安定を求め、吾等は日本の法律の範圍内に於て從來の牛馬の様な慘なな生から光明ある人生に解放されべく努力するのだ。

雨が降らぬと風が吹くと、多くの兄弟姉妹の爲めに奮闘を続ける。若し私達と同じ意見の方は個人々々なり四五名死組んだり、最悪の事務所へ申し込んで下さり、今月末頃西部紡織工組合の發祥地中之島中央公會を離れたい方々から同志の方は是非その前に申し込んで下さり。左記は日本紡織標準工場労働組合より申し上げます。こんどのきぶのころをじよ、我々の御同情の事と思ひます。よ、わたたちのよ